

⇒ 大学で勉強するためには・・・

●履修すること —自分で科目を選ぶ—

大学で勉強する(履修する)ためには、まず「履修登録」をしなければなりません。

高等学校までと違って、大学では、必修科目(自分の所属学科で必ず履修しなければならない科目)以外の「**選択科目**」は自分で科目を選ばなければいけません。

これは、自分の所属学科の中心的な科目(必修科目)を勉強するとともに、周辺科目を自分で選ぶことで、自分なりの学習体系をつくりあげていくことになります。

大学では、「何を学んだか」より、「いかに学んだか」がより大切です。

現在の社会は、これまでの終身雇用制の学歴社会から、契約雇用制の資格・学習歴社会へ移行している、といわれています。皆さんは近い将来、就職活動等、自分の将来を決定する時期がやってきます。自分の可能性を大きく広げるために、基礎となる大学での学習に、積極的に取り組みましょう。

⇒ 履修登録を行うための基礎知識・・・

●大学は前学期と後学期の2学期制 —セメスター制という—

1年間を前学期と後学期の2学期に分け、学期ごとに、配当科目が決められ、授業・試験・成績評価を行います。1つ1つの科目は、半年間で完結します(※一部科目を除く)。

卒業までには、2学期×4年＝8学期(短期大学部は2学期×2年＝4学期)あります。卒業までの4年間(短期大学部は2年間)の履修計画を立て、そして、年度ごとに修正しながら、各学期の配当科目を学修していくことが大事です。

●大学の授業科目は単位制 —学習の考え方を知ろう—

各科目の単位数は、教室における授業時間と授業時間以外に必要な学習(予習・復習)を前提として決められています。ほとんどの科目が2単位です。2単位修得には、

→ 授業科目 1コマ＝2時間/週(本学では90分) × 15週間
修得のための予習復習時間＝4時間/週 × 15週間

の時間数が必要とされます。

仮に前学期で24単位(12科目)履修登録した場合、1週間で授業以外に「4時間×12＝48時間」の予習・復習が必要となり、月～土の6日間で考えると、1日平均8時間の予習・復習が必要となります。したがって、無制限に履修登録すると消化不良を起こしてしまいます。**そこで本学では、「年間46単位まで、学期ごと26単位まで」を上限とする基準を設けています。**(※計算例は7ページに記載)

●学習体系の特長 —いろいろあるのが本学の特長—

皆さんは、自分のめざす勉強があつて、それぞれの学科を選び、難関を突破して入学してきました。大学では、それに応えるべく、皆さんが満足できる、そして皆さんを、自信を持って社会に送り出せるような学習体系(カリキュラム)を作っています。学習体系(カリキュラム)には、本学の120年の伝統に培われた教育理念と、学風が盛り込まれていることを、皆さんはしっかりと感じ取ることができるでしょう。以下に、科目の種類と学習体系の特長を記します。

◆科目の種類

【必修科目】

各学科に配当された、学科のめざす専門分野の科目です。簡単に言うと、皆さんが「専門家」になるための絶対必要条件の科目です。必修科目は、必ず履修して、合格の成績評価を受けないと卒業できません。1つでも不合格だと卒業できません。

【選択科目】

各学科に配当された、より高い専門性を修得するための科目です。皆さんの意思で自由に選択できます。

【選択必修科目】(※一部学科のみ)

各学科に配当された、学科のめざす専門分野の科目で、限定された科目群の中から、指定された単位数を修得しなければならない科目です。

◆学習体系の特長

【学部共通科目】

いくつかの同系統の学科が集まった学部の共通科目です。学部内で各学科の専門を学んでいく基礎知識として共通性の高い科目が設定されています。**学部共通科目**には、英語などの必修科目と、自由に選択できる選択科目があります。

【他学科・他学部聴講制度】

本学のカリキュラムの大きな特徴として、**他学科・他学部聴講制度**があります。これは、他の学科・学部に配当されている科目を、皆さんが自由に選択できる制度です(※実習・実験・演習科目、一部科目を除く)。

本学は、農学から出発し、農学の多様性から生物系の総合大学へと発展してきました。学問領域は、より細分化、より専門化され、学際的視野・知識が必要不可欠になっています。本学は、農学分野の性格上、大局的視野と高度な専門性の修得を教育目標としています。皆さんの学習の中にも、専門性と学習の総合化を期待しています。言葉を変えれば、**他学科・他学部聴講制度**は、本学の教育理念“実学主義”にも通じるもので、現実を広い視野で考え、実社会に役立つ高度な専門性を築いていくことを、学生の皆さんに期待しているということです。

【英語による専門教育プログラム】(大学のみ)

全学部全学科の学生を対象としたプログラムです。本学の専門的な教育科目を、すべて英語による授業で開講するものです。グローバル化時代に対応した大学教育の必要性から実施するものです。自分の英語の実力アップを計りながら、『Basic』なレベルの科目から『Advanced』な科目へ挑戦してください。

【教職課程・学術情報課程】

教員免許取得や学芸員、司書の資格を取得したい学生のために開講しています。これらの資格を取得したい学生は、自分で申請して履修手続きをしなければなりません。

●履修登録する 一科目を選ぶ、そこに自分の可能性が詰まっている一

必修科目以外の選択科目をいかに選ぶか。皆さんが、より良い学習体系を創造していくために、アドバイス!

【選択科目の選び方】

① 自分の学習体系を決める。

卒業までの4年間で総合的に把握し、卒業後の将来を見据えた学習プランを考えてください。

→ 在学生は、成績表をもとに、自分の学習体系を再確認すること。前年度までの学習態度を再検討するのに良い機会でもある。さらに方向修正もできる。

② 科目名をチェック ⇒科目名で大体の内容がイメージできる。

- ◇ 自分の学科配当の選択科目
- ◇ 自分の学部の共通配当科目
- ◇ 他の学科、学部の科目

※ 本学では、「他学科・他学部聴講制度」で、他の学科学部の必修科目と選択科目(実験・実習・演習は除く)が、他学科聴講で30単位まで、他学部聴講で30単位まで履修できます。

③ Web シラバス(講義要項)で科目の講義内容をチェック。

科目名だけでは、実際の細かな講義内容はわかりません。Web シラバスには、全科目の詳細が載っています。しっかり活用してください。

④ “おためし期間”で、履修したい候補の講義を受講する。

シラバスで科目の内容がわかったら、実際の講義を聴いて内容をチェックしてください。本当に学びたい科目なのか確認しましょう。授業開始から2週間(=2回の講義が聴ける)の期間を設けています。

⑤ さあ、ここで、履修登録しましょう。

後学期開講科目についても、前学期に同時に登録します。授業に出席せずに登録科目を決めなくてもはいませんが、後学期開始後の2週間は前学期と同様に「おためし期間」があり、履修登録及び修正期間を設けていますので、追加・削除・変更が可能です。

履修登録するための諸注意は、6ページ以降に記載していますのでよく読んでください。

【重要】:履修登録は、期限を定めています。登録締切日までに登録してください。

○学生諸君への注意事項 ー自分のことは自分で、責任を持ってー

1. 配付した書類は熟読してください。
2. 掲示板や学生ポータルサイトを必ず確認してください。
3. 提出期限は厳格に守ってください(期限後は受け付けません)。
4. 電話での問合せは一切受け付けません。
5. 学習支援課窓口の業務時間は次のとおり(時間外は受け付けません)。

【平日】8:00～19:30(授業期間以外は17:00まで) ※厚木キャンパスは 8:30～17:00

○学部・学科等の名称の短縮表示・表示順番について

本学では学科等の名称を略して表示することがあります。また、掲示物などの順番も原則として次のように行います。

| 学 部 名 等 | 略称名 |
|-----------------------|-------------|
| 農学部 | 農学部 |
| 農学科 | 農学 |
| 農業生産科学コース | 農 |
| 園芸生産科学コース | 園 |
| 畜産学科 | 畜産 |
| バイオセラピー学科 | セラピー |
| 応用生物科学部 | 応生学部 |
| バイオサイエンス学科 | バイオ |
| 生物応用化学科 | 化学 |
| 醸造科学科 | 醸造 |
| 栄養科学科 食品栄養学専攻 | 栄養 |
| 栄養科学科 管理栄養士専攻 | 管理 |
| 地域環境科学部 | 環境学部 |
| 森林総合科学科 | 森林 |
| 生産環境工学科 | 工学 |
| 造園科学科 | 造園 |
| 国際食料情報学部 | 国際学部 |
| 国際農業開発学科 | 開発 |
| 食料環境経済学科 | 経済 |
| 国際バイオビジネス学科 | ビジネス |
| 短期大学部 | 短大部 |
| 生物生産技術学科 | 短生 |
| 環境緑地学科 | 短緑 |
| 醸造学科 | 短醸 |
| 栄養学科 | 短栄 |
| 英語による専門教育プログラム | 英語専門 |
| 全学共通科目 | 全学共通 |
| 教職課程 | 教職 |
| 学術情報課程 | 学術 |